

「授業支援カード」、学習支援パックの活用

静岡県 浜松市立蛸塚中学校

基本データ

所在地	浜松市中区蛸塚二丁目 15-1
児童生徒数	394人
教職員数	30人
蔵書数	10,414冊
年間貸出冊数	3,195冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築

【活動のねらい】

- 校内の蔵書で対応できない場合、域内の公立図書館の蔵書を活用することで、子供たちのニーズに応じた資料を提供し、生徒の課題解決的な活動を支援することをねらいとしている。

取組・活動の概要

(1) 「授業支援カード」の活用

- 浜松市公立図書館では、授業で活用する資料の貸出用に「授業支援カード」を発行している。
- 「授業支援カード登録申込書」へ記入、図書館窓口で申請すると、3週間を期限として上限40冊の図書等を借りることが可能になる。
- 本校でもこの制度を積極的に活用し、公立図書館の図書資料を活用した授業を展開している。

様式④

サービスG長 ・地区総長		担当
授業支援カード登録申込書 (教員・学校図書館補助員業務用)		
申込日 令和 年 月 日	利用者カード番号	
フリガナ 氏名	住所 〒	-
生年月日 昭和・平成 年 月 日	電話 ()	-
クラス担任・教科担当教員・学校図書館補助員 その他 ()	所在地 〒	-
フリガナ 学校名	学校	
年 組	電話 ()	-

新規・更新・再発行・記載事項変更 (住所・氏名・電話)
※再発行申請日: / 受付料: 円%:

授業支援カード登録申込書

【授業支援例】

- 第3学年 国語科 「状況を捉え、人の生きる姿や社会について考えを深める」 『故郷』他
- 構想した単元
 - ①教科書教材の『故郷』を読み、人間の生き方や在り方について自分の考えをもつ。
 - ②そこで身に付けた力を活用し、自分が選んだ作品を読み進める。
 - ③その本の中に見えた人間の生き方や在り方に対する考えをもち寄り、読書座談会で自分の

考えをさらに深める。

- 本単元を進めるにあたっては学校図書館の蔵書だけでは対応しきれないため、浜松市立中央図書館の指導主事との打ち合わせを経て選書を行った。

(2) 学習支援パックの活用

- 浜松市公立図書館には、「学習支援パック」というサービスがある。
- これは、各教科等の学習や調べ学習で活用できる図書資料をコンテナにパック詰めしたものを貸し出すサービスである。
- 学校の蔵書で対応できない場合、浜松市立中央図書館に「学習支援パック」の貸出の申し込みをすると、近隣の図書館でそのパックを受け取ることができる。
- 本校では、このサービスを活用し、公立図書館の図書資料を授業内で活用し、学習活動の充実を図っている。

例：国語科における多読を取り入れた授業、総合的な学習の時間における職業調べ学習、修学旅行の事前調べ学習 等

◇行事	20-22 【しごと】	19~21 職場体験学習
	31 【食育】	24 給食週間
◇修学旅行	27 【修学旅行(京都)】	22 中学校
	28 【修学旅行(奈良)】	22 中学校
	29 【修学旅行(東京周辺)】	22 小学校

学習支援パック 教科別目次 (抜粋) 「修学旅行」パックのイメージ

様式 ⑤ (別紙)

学習支援パック 貸出申込書

令和 年 月 日

(あて先) 浜松市立中央図書館長

① 学校名/学年：() 学校 () 年
 電話番号： FAX 番号：
 利用者 氏名：
 申込者 氏名：
*中央図書館より郵送いたします。利用する先生と申込書内容を確認はされたい。

◇ 受取希望日の2週間前までにお申し込みください。貸出期間は受取希望日より3週間です。

② 受取希望図書館() 図書館() 受取希望日(月 日)
*受取と返却は同じ図書館

③

番 号	パックの名前	パック数

※ 上の①-③についてご記入ください。
 ※ ②には希望するパックの番号と名前、希望数をご記入ください。
 ※ 【その他】については、「単冊」欄に【その他】、「パックの名前」欄に「冊数」をご記入ください。
 ◇ 受取希望日や貸出パック数について確認させていただく場合がございますので、ご了承ください。

浜松市立中央図書館 TEL: 456-0234 FAX: 453-2324
 メールは: shuokiryu.hametsu.shizoka.jp

図書館が記入します…貸出期間【 月 日() ~ 月 日() 】

* この申込は、「図書館HP」→「学校図書館支援(学校の先生へ)」よりダウンロードできます。
 * FAXもしくはメール(貸出申込書を添付)にてお申し込みください。

- 2 -

学習支援パック貸出申込書

取組・活動の工夫や特徴

- 「図書資料の積極的な活用を図りたい教員のニーズにどう応えるか」が重要であると考え、学校図書館担当教員が、教員と公立図書館をつなぐ窓口となって対応する。
- 近隣の公立図書館のサービス内容を確認、学校図書館運営に活用できるものを吟味して教育活動に活かし、実践内容を評価して改善策を協議・検討する、という一連の流れをおさえながら、公立図書館との連携の在り方を模索することが重要。

取組・活動の成果や今後の展望

- 実践事例においては、文学的文章だけではなく、絵本など子供たちの実態に合わせた選書をしたことで、授業において進んで本を手に取り、読み進める生徒の姿が見られた。
- また、各々が登場人物の設定や物語の背景に着目し、人間の生きたや在り方について、自分なりの考えをもつことにつながった。
- 公立図書館の豊富な資料を活用することができると、子供たちのニーズに応じた支援をすることができる。
- 貸し出された「学習支援パック」の内容が、蔵書購入の際、選書の参考となるため、蔵書の充実につながっていく。

